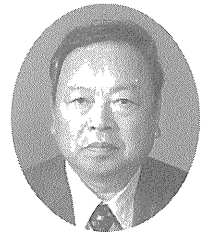


ずいそう

ホールインワンの確率

深堀哲男



7月末になっても肌寒く梅雨が明けない天候が続いている中で、7月29日に仙台近郊の名取ゴルフ倶楽部の月例会に参加、初のホールインワンを達成した。

当日はインスタート。4ホールボギーで他はパー、40は近頃のない好スコアで終了。午後のアウトホールは難しいホールが続く。昼の飲み方が影響したのか、案の上ボギーが続く。6番ホールは左の林へ打ち込み、第2打がグリーン奥のバンカーへ、ホームランで又バンカーへ4打目はバンカーから出ず、5オン3パットの8の大叩きだ。7番ショートホールは平坦で140ヤード、グリーン手前に深いバンカーがあり、なだらかな受けグリーン、当日のピンは右側でバンカーからははずれている。6番の大叩きでチョコレートも減っており、このホールでニアピンでも狙おうかと、7番アイアンで力まずに打った。ボールは真っ直ぐにピンに向かって飛んで行く。ショットは満足なもので手には心地よい感触が残った。ワンピン手前にバウンド、そのままピンに向かって転がって行ったが、ピンのあたりで消えた。「そんな馬鹿な～」同伴者は「入った、入った」とはしゃぎ立てる。ほんとうに入ったのかとキャディさんに聞いたらすずが年功者「グリーンに行ってカップを見ましょう」と実に冷静な受け答えだ。カップを覗くとたしかに私のボールが鎮座している。感動のホールインワン達成だった。カップからボールを取り出しながら、変な疑問が頭の中を駆け巡った。このホールインワンは偶然の産物か、それとも技術か、またはその両方か、悩む所である。残りホールはボギーとし44、トータル84でホールアウトした。

保険会社のパンフによれば男子プロはホールインワンを出す確率3,700回に1回、女子プロは4,660回に1回、一般ゴルファーではなんと、43,000回に1回だそう。1ラウンドにショートホールが4ホールあるので10,750ラウンドに1回の幸運である。この天文学的数字から見た限りでも、まさしく偶然の産物であり、私の悩みは霧散した。

私のゴルフ歴は、45歳の正月から始まった。正月酒を飲み過ぎたのか、胃が痛み隣の内科医の診立ては、

単なる胃炎でタバコを止めれば治ると言う。タバコを止めたら1ヶ月に4kgも体重が増えた。なんか運動でもしようとゴルフを始めた。ところがこれが大失敗である。ゴルフは痩せるほど運動量が多くない。悪い事に昼食は飲み喰うでは痩せる訳はなく、今では腹が出てしまい、スイングは体が回らず、カップからボールを取るのに苦労している。それでも減量のための運動とこじつけコースへ出かけている。

ゴルフを始めた頃、近くのパブリックコースで第1打をOBし、打ち直しのショットがカップインしたのである。あわてて保険に入った。保険に入ると当然のようにその兆しすらなくなる。年間30ラウンドはコースに出るから、ショートホールで120回打つ。18年間ゴルフをやっているので、2,160回のチャンスがある。ホールインワンの確率は2,160分の1である。前述の43,000分の1と比べると20分の1となり、確率だけで言えば凄いホールインワンと言える。

問題はプレー終了後であった。ホールインワンの保険には入っているが、期限は切れていないか、契約金額は、証券はあるか、どうゆう方法でお祝いをするかなど、心配なことがいろいろある。

たまたま7番ホールには7万円の商品券が懸かっていた。これはゴルフ場からのプレゼントで申請書に署名だけで貰えるそう。女房に話したら「これは私が貰います」と商品券の帰属が一瞬にして決まった。返す言葉が見つからない。

保険会社から届いた書類を受け取ってびっくりした。やたらとサインとハンコがいる。まず同伴競技者のサインとハンコ。キャディのサインとハンコ。倶楽部責任者のサインとハンコ。さすがハンコ大国日本である。しかし、達成者のサインはあるが、ハンコを押す欄がない。保険会社は早い話が本人をまったく信用していないと言う事である。

そもそもゴルフは紳士のスポーツであるはずである。その紳士を信頼出来ないとは、何をか言わんやである。